
俺とバカたちと召喚獣

オオカミとウサギ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

俺とバカたちと召喚獣

【Nコード】

N7166Y

【作者名】

オオカミとウサギ

【あらすじ】

本作はバカとテストと召喚獣の二次創作です。原作にいないはずのキャラクターが登場！何の欠点も無いような超人の主人公が、Fクラスの奴らと楽しい日常などを書かせてもらいました。※不定期更新です。

主人公紹介（前書き）

主人公のプロフィールを書かせていただきました。後に新しいオリジナルキャラクターも出しますのでよろしく願います。

主人公紹介

『主人公紹介』

《名前》 薙原 隼斗

《性別》 男

《年齢》 16歳

《誕生日》 7月21日

《身長》 178センチ

《体重》 64キロ

《外見》 端正な顔立ちで、ルックスもいい。背が高く痩せているが、無駄の無い引き締まった体つきをしている。肩くらいまでの黒い髪に、碧眼。

《詳細》 本作品の主人公。ルックスがよく、スポーツも万能で成績優秀なため女子に人気がある。ある理由からFクラスになった。実際はAクラス首席レベルの実力を持つ。とくに科学が得意である。召喚獣は黒いスーツに黒刀を持つ。家が近いから、という理由で文月学園に入学した。特技は料理。趣味は薬品作り。両親はどういう偶然か明久の両親と同じ職場なため、海外にいる。

主人公紹介（後書き）

主人公のプロフィールを書いたただけだったので、かなり短い文章になりました。

それにしても、この主人公。自分で書いといてなんですけど、やり過ぎましたね。でもまあ、この主人公を中心に書いていきますのでよろしく。

第一話（試験召喚戦争編開幕）（前書き）

書き終えてみて、これまた書く量が少ないことに気づいてしまったあ！

隼斗「そーなんだ」

そっけな！？もうちょつと興味持ってよ！！

隼斗「わかったからわかったから。ったく……確かに短いな。まあいいじゃん。別に。はい、終わり」

ちゃんと考えてよ！

隼斗「明久ー。それ投げてー」

見事なスルーをありがとう☆じゃなぐふう！？

隼斗「ナイスコントロール明久」

第一話（試験召喚戦争編開幕）

バカテスト《科学》

問 以下の問いに答えなさい。

『調理のために火にかける鍋を製作する際、重量が軽いのでマグネシウムを材料に選んだのだが、調理を始めると問題が発生した。この時の問題点とマグネシウムの代わりに用いるべき金属合金の例を一つ挙げなさい』

薙原隼斗の答え

『問題点……マグネシウムは炎にかけると激しく酸素と反応する為危険であるという点。』

合金の例……ジュラルミン』

教師のコメント

正解です。合金なので『鉄』駄目という引っかけ問題なのですが、薙原くんは引っ掛かりませんでしたね。

土屋康太の答え

『問題点……ガス代を払ってなかったこと』

教師のコメント

そこは問題じゃありません。

吉井明久の答え

『合金の例……未来合金（↑すごく強い）』

教師のコメント

すごく強いと言われても。

文月学園。それが俺の通っている高校である。

その文月学園に入学してから二度目の春を迎えた。

校舎へと続く坂道には新入生を迎える見事な桜が咲き誇っている。見る人によっては目を奪われるであろう、と思うくらい綺麗だ。実際、俺もその眺めには目を奪われていた。

でも、それも一瞬のこと。

俺の頭は今見ている桜よりも、これから始まる今年一年間一緒に戦い抜いてくバカなクラスメイトたちのこと考えてた。

☆

玄関の前までいくと浅黒い肌をした短髪のいかにもスポーツマン然とした男が立っていた。

「おはようございます、西村先生」

「ああ、おはよう」

軽く頭を下げて挨拶をすると、ドスのきいた声の返事がかえってくる。彼は生活指導の鬼、西村教諭だ。去年からお世話になっている。悪い意味で。

「ん、なんだ薙原か。珍しいじゃないか、お前が遅刻しないなんて」「遅刻しないことが珍しいなんてどんな生徒ですか。てか俺、遅刻したことありませんよ。あんまり」

遅刻したことがない、とは言えないけど、遅刻するしないのが珍しい、と言われるほど遅刻した覚えがない。西村先生は去年俺の担任だったんだからそのことは分かっているとと思うんだけど。

「そうだったか？」

「そうですよ」

「まあ、遅刻は、な。ほら、受け取れ」

箱から封筒をとりだし、俺に差し出してくる。宛な名の欄に『薙原隼斗』と、大きく書いてあった。

「あ、どーも」

一応頭を下げながら受けとる。

「てか、もう見なくても分かるからいら無いんですけどね」

「全く……テスト中に寝るやつがあるか。お前ならAクラス確定だろうに」

「ははっ、過大評価しすぎですよ。それに設備ならすぐに奪ってみせますよ」

この文月学園は、下からF、E、D、C、B、A、とクラスが6つある。2年生以上はAから順に振り分け試験の成績順で決まってくる。頭のいい奴はAクラス、悪い奴はFクラスといった具合になる。

「去年の学年で一番成績がよかったお前なら、全然過大評価でもないと思うが。設備については頑張るんだな」

「はい」

頑張れ、とは言ってくれているが、まあ、実際は期待されてはいないだろうけど…………。

「じゃあ、もう行きますね」

「ああ」

『薙原隼斗……Fクラス』

こうして俺の最低クラスでの生活が始まった。

第一話（試験召喚戦争編開幕）（後書き）

原作とさして変わらないと思います。

まあ、本文はおいといて、前書きはどうでした？ たまにあんな感じに書かせていただきたいと思います。そんなわけでこれからお願いします。

あ、これから期末テストがあるので更新が遅れますがそのところ御了承下さい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7166y/>

俺とバカたちと召喚獣

2011年11月22日18時50分発行